

「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。」

キリスト教徒の新渡戸稲造は、このみことばを思い浮かべながら、その「自警録」に次のように書きました。「幸福なるものは粟（あわ）、米のごときもので、やわらかく握ったほうが余計につかみ得るものではあるまいか。」この意味は、「ぎゅっと力一杯握っては、米粒は、幸福はこぼれてしまう。だから、やわらかく、できるだけ柔和に、幸福をつかみなさい。」あまりにも強く幸せになろうと思わないで、もっとリラックスして生きなさいよ、と言うことなのでしょう。

----- クリスチャンになりたくない、3つの理由 -----

- さて、あるご主人が言いました。「クリスチャンになる気がしない。」その3つの理由。
- ・その1、クリスチャンは聖書を読んで、きれいごとばかり言っている。あれでは世渡りはできない。
 - ・その2、クリスチャンはひ弱い。これでは激しい競争時代、リーダーシップは取れない。
 - ・その3、クリスチャンはふたこと目には、天国、天国と言って現実問題にうとい。

----- 魅力的でないことば、柔和？ -----

でも、今朝の箇所イエス様は次のように語っておられます。「柔和な者は幸いです。」しかしどうでしょう。実際の所、多くの特に若い方々にとっては、柔和というのは、あまり魅力を感じさせない言葉かも知れません。むしろこの時代尊ばれているのは、ちから、知識、ガッツ、才能ですね。本屋さんに行きますと「成功の秘訣」とか「君もこの手で行こう」とか「上手にあつかましくたち回って成功する」と言った本がたくさん出ています。ですから、私たちは何か問題が起こりますと、いつも力関係ですぐ解決しようとしします。

----- 今は柔和が必要な時代 -----

ですから、今こそ柔和が必要なのかも知れません。
イエス様は今朝、次のように語っておられます。「柔和な者は幸いです。」

- では「柔和な者」とは一般的には、どのような人なのでしょう？考えられることは、
- 第1、心が優しい人。
 - 第2、おとなしい人。
 - 第3、いつも、微笑（ほほえみ）を浮かべている人。

しかし、裏を返せば、次のような意味にもなるでしょう。

- 第1、やさしいけれど頼りない。
 - 第2、当たりは柔らかいが、主体性がない。
 - 第3、柔和？でも柔弱？なのかも。
 - 第4、真面目なのはいいけれども、実は臆病なだけ？
 - 第5、自分の平穩、無事だけを願っている。中にはこんなひどい事を言う人もいます。
 - 第6、ニコニコしても、偽善的に見える。 厳しいですね。
- それにしても、「柔和」の意味、あまりパッとしません。

----- 柔和な者の意味 -----

では、聖書から「柔和な者」について学びましょう。

実は「柔和な者」と「心の貧しい者」とは、ほとんど同じ意味のようです。

また、聖書で言う「柔和」とは謙遜とも謙虚とも訳せる、そんなことばです。つまり、第1に、自分自身、神様によって生かされている事を知っているのです、徹底的に、自分を神に、明け渡している、謙遜な人。

第2に、どこまでも神の前に、自分を罪人と認めている人。

第3は、自己主張をしないで、とことん、神の御旨に従っている人です。

でも、そんな人なんているんでしょうか？

そうです！「柔和」それは、弱々しいとか、女々しい心とは全く違うものだと思います。

ヤコブ1章20節「人の怒りは神の義を実現しないのです。」

3章18節「義の実を結ばせる種は、平和をつくる人々によって平和のうちに蒔かれるのです。」

このみことばからも分かるように、真の勝利は力によって勝ち取るものではなく、柔和な心によって、平和的な方法によって、神さまからいただくものなのです。

----- 柔和、その模範者イエス様 -----

ですから、この様な人は、神さまに従っているのです、怒ったり、憎んだり、復讐心を持ちません。返って、この様な人は、どんな時でも相手の人を大切にします。相手の心が閉じられていても、彼の心の窓は大きく開かれています。そして、相手のために祈ります。相手の心が開かれるのを待ちます。待ち続けます。彼は常に微笑んでいます。喜んで親切を行います。そして更に、自発的に犠牲を払うのです。自ら進んで他人の泥をかぶります。でもそんな人、この世にいますでしょうか？ ちょっと見渡しても、なかなか出会うことは難しいかもしれません。

しかしです。第2テモテ2章13節「私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。」

このお方に目を向けてみましょう。

こうして、考えていきますと、イエス様こそ、世界中の人々の罪の泥をかぶられたお方と言えないでしょうか。

神が人となられてこの世に来られた救い主、柔和なお方イエス様は、決して剣を持って闘おうとはなさいませんでした。むしろ十字架上で、ご自身の血の最後の1滴まで私たちのために流し尽くされました。イエス様は自らが死ぬ事によって、その血汐によって、罪と悪魔に勝たれました。そして、限りのない、罪の問題、死の問題にピリオドを打たれたのです。

----- ご自分の血を流されたイエス様 -----

多くの時代、革命は他人の血を流すことによってなされてきました。

でもイエス様は社会を変えるためだけでなく、私たちを変えるために、この世に来られました。イエス様は生きるためではなく、死ぬためにこの世界に来られました。そして、イエス様は十字架の上で、人の血ではなくご自身の血を流されることによって、私たちの心に愛の革命を起こして下さいました。

イエス様はローマに勝つために剣を用いませんでした。ただ、黙って十字架に上られました。それは完全な敗北のようにみえました。しかし今、ローマ帝国はありません。それどころか、イエス様の十字架は全世界の信じている人々の上に、永遠の愛の勝利を与えています。そして、神のみ国は永遠に続いているのです。

イエス様は今 私たちに対しても語っておられます。「柔和な者は幸いです。・・・」

----- どうしたら、柔和な心に・・・ -----

では、どうしたら私たち柔和な者になることができるのでしょうか？

イエス様を私の心の真ん中に迎え入れるのです。「彼は常に真実である」このイエス様は次の様にも語られました。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。 マタイ 11章28～30節

そう、イエス様の心を私の心とする時、そこにこそ真の安らぎがあり、魂の満足、魂の平安、安心があります。

----- 地を受け継ぐ -----

さて、「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。」この「地を受け継ぐ」とはどういう意味なのでしょう。

皆さんは、「北風と太陽」のお話しを知っているでしょう。

道を歩いている、一人の旅人を見て、どちらが早く旅人のマントを脱がせることが出来るか、競争しました。先に私からと言って、北風さんは、思いきって冷たい風を吹きつけました。「これでもか、これでもか」と言って吹きつけました。旅人は、ますますしっかりとマントをつかんではずしませんでした。何回やっても無駄でした。さあ今度は太陽の番です。太陽さんは、やさしく暖かな日差しを注ぎました。そのあたたかさが旅人を包むと、旅人は気持ちが良くなって自ら、自発的にマントをはずしました。

私たちも暖かな心で、心を大きく開いて、誰とでも接していきたいですね。きっとその方は心のマントを脱いで心を大きく開いてくれることでしょう。その時あなたはこの地上で一人の友を得たのです。この世界に一つの平和をつくったのです。良き物は天国だけにあるわけではありません。 **柔和な心は、地上に天国の様な世界を造ることができるのです。**

聖書のことば。「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。」

—— 千年王国のこと ——

「はじめに神が天と地を創造された。」（創世記 1:1 節）

神様は天と地を創造されました。という事は、創造された世界には始まりがあるという事です。つまり、始まりがあると言う事は、終わりもある、ということになります。

聖書には、世界の始まりと、世界の終わりのことが書かれています。

世の終わりには、キリストが再臨されます。（キリストが人として始めてこの世に来られた時のことを、**初臨『クリスマス』**といい、再び来られることを、**再臨**と言います。）

世の終わりは、7年間の患難時代から始まります。聖書はその時、必ず前兆があると教えています。（最近の世界の動きを見ると、もう始まっているかの様です）この前兆が始まると、いよいよ世の終わりの始まりです。この患難時代の中で、キリストは再臨されます。その時、教会は天に引き上げられます。これを携挙（けいきょ）と言います。この時、すべての信者は死からよみがえり、生きている信者も一瞬のうちに変えられて、天へと引き上げられます。そしてキリストと共に地を裁きます。今までの世界は、未信者がわがもの顔で、この世の価値観で世界を支配していました。しかし、この時に至っては、私たちが世界を支配する者となります

「地を受け継ぐからです。」この意味は、主にある者が私たちの父より遺産相続として世界を受け継ぐことです。私たちが御国に入れられると言う事は、神様が世界をすべて治める、その働きに私たちも参加できる、と言う事なんです。この時、キリストと共に主にある者は、この地を支配する者となります。確かに「地を受け継ぐ・・・」のです。

柔和なる者、クリスチャンである皆さんは真に幸いなる人々です。皆さんがこの地を治める働きをして下さることによって、何と千年間もの間、地上は平和の世界になります。

その時代は、その名の通り、千年王国と呼ばれます。

この千年間、サタンはつながれていていて、地上に平和と祝福がもたらされます。

やがて、千年の終わりにサタンの反抗があり、最後の審判が行われ、サタンは永遠に滅ぼされます。そして、主にある者たちは、御国へと引き上げられます。

なぜ、新天新地の前に、千年王国があるのでしょうか。それは、柔和なる者、義とされた者たちが、千年王国を経験することによって、永遠の世界、新天新地に入る備えができるからです。

それにしても、今までの地上での、キリスト教会は、どのような場所だったのでしょうか。

そこは「柔和な人、幸いな人」の集まっている唯一の世界でした。

地上で御国を唯一味わえる場所でした。これはオンライン礼拝では味わえません。

もう一度、聖書のことばです。

「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。」